



「みんなが気軽に集まれる公共施設を」と質問する千葉満里奈さん(5年)と質問の絵を掲げる蛇岩翔太君(2年)

12人が堂々と一般質問 小屋瀬小の子ども議会

2月21日、小屋瀬小学校(大野弘子校長、児童32人)が「子ども議会」に初挑戦しました。議場には、本会議さながらに町長以下関係課長が出席。議長の林桃子さん(6年)が登壇して一般質問が始まりました。「障害のある人やお年寄りが安心して暮らすためにどんな工夫をしていますか」「自然を生かした町づくりの工夫で、新しいことを何か考えていますか」など12人のちびっこ議員が堂々と質問し、中村町長が1人ずつ丁寧に答えました。

最後に、児童会長の鈴木雄晃君(6年)が「豊かな自然を守る」「充実した学校生活を送る」など4項目の「小屋瀬小子どものちかい」を宣言。中崎町議会議長は「立派な議会でした。葛巻の良い所を発見し、良いまちづくりに協力してください」と講評しました。

出前講座で俳句と遊ぶ 五・七・五で感性みがく

俳句に力を入れている江刈小学校(瀬川都代校長、児童42人)では、生涯学習出前講座「俳句で遊ぼう」で町職員を招き、いつもと違う俳句を楽しみました。

2月14日は、1～3年生がお話を聞いた後、チューリップを題材に俳句づくりに挑戦。じっくり観察し、すてきな作品ができました。

翌日は4～6年生が、名前を伏せて俳句を選び合う「句会」を行いました。真剣に選んだ結果、川戸誠之君の「さくらまい思いとどける手がみかな」が最高点を獲得しました。

子どもたちは「発表するのが楽しく、どきどきした」「作者の気持ちを考えた」など感想を述べていました。



チューリップを題材にし、俳句をつくる低学年児童

地元の味をたっぷり 森のワインパーティー

第17回高原の夕べ・森のワインパーティーは2月10日、モウモウ館で開かれ、ビートルズサウンドを聞きながら約230人がぐずまきワインや料理を楽しみました。

オープニングでは、新しい町の応援歌「葛巻讃歌」と商業ソング「アウスレーゼぐずまきワイン」の発表がありました。2曲とも、作詞作曲は向川原英美さん(61歳・新町)、編曲は澤口浩さん(44歳・中村)です。町のイメージが広がる歌の誕生に、会場から盛んな拍手が寄せられました。

参加者は、「ほたる」「ナドーレ」の新酒やぐずまき高原牧場の乳製品、地元の食材を利用した料理などをたっぷり味わいました。



生演奏に耳を傾けながら、談笑する参加者